



平成 26 年 6 月 24 日

各 位

会社名 双 信 電 機 株 式 会 社
 代表者名 代 表 取 締 役 社 長 上 岡 崇
 (コード番号： 6938 東証第1部)
 問合せ先 経営推進本部経営企画室長 津久井英明
 (TEL： 03-5730-4500)

支配株主等に関する事項について

(1) 親会社の商号等

当社の親会社は次のとおり日本碍子株式会社1社であり、その他の支配株主等はありません。

(平成 26 年 3 月 31 日現在)

親会社	属性	親会社の 議決権所有割合(%)	親会社が発行する株券が 上場されている証券取引所
日本碍子株式会社	親会社	40.7%	株式会社東京証券取引所 株式会社名古屋証券取引所

(2) 親会社の企業グループにおける当社の位置付けその他の当社と親会社との関係

親会社である日本碍子株式会社は、当社総株主の議決権の 40.7%を所有する筆頭株主であり、当社グループの事業は、同社の事業区分の中ではエレクトロニクス事業に属しており、セラミック電子部品に係わる技術、開発面を中心に緊密な関係にあります。また、資金面においても同社の運営する CMS(キャッシュ・マネジメント・システム)に参画し、余剰資金の運用および運転資金の借入を行っております。

同社とは経営力の強化、技術、開発の連携を目的として、当社役員 8 名のうち、取締役 1 名および監査役 1 名(非常勤)を招聘しております。同様の目的で同社より 4 名の出向者を受け入れております。なお、当社取締役 5 名のうち 1 名は同社の従業員であり、一部の事業において重要な役割を担っております。

同社のセラミックに係わる技術を応用した当社の LTCC 事業は、同社および同社の企業グループでは行っておらず、明確な事業の棲分けがされており、LTCC 事業以外の事業においても親会社からの制約はなく、経営上の独立性を保ちながら独自の事業活動を行っております。

当社は親会社の企業グループと緊密な協力関係を保ちながら事業を展開する方針であります。一方で独自の経営方針および経営戦略に基づき独立した事業活動を行っており、親会社の企業グループとの明確な事業の棲分けもされております。また、親会社兼務取締役の就任状況および出向者の状況は以下に記載のとおりであります。いずれも当社からの要請に基づくものであり、兼務取締役が過半数に至っていないことから、当社独自の経営判断を妨げるものではなく、一定の独立性が確保されていると認識しております。

(役員の内兼任状況)

(平成 26 年 6 月 24 日現在)

役職	氏名	日本碍子(株)グループ企業での役職	当社への就任理由
取締役	杉山 雅彦	日本碍子(株)から出向	経営体制の強化、親会社との連携を図るため
監査役 (非常勤)	豊田 育男	日本碍子(株)エレクトロニクス事業本部 企画部長	経営監視体制の強化を図るため

当社取締役 1 名、監査役 1 名のうち、親会社との兼任役員はおりません。

(出向者の受入状況)

(平成 26 年 6 月 24 日現在)

部署名	人数	出向者受入理由
経営推進本部、営業本部、技術本部	4 名	体制強化のため当社から要請

(3)親会社との取引に関する事項

当連結会計年度(自 平成 25 年 4 月 1 日 至 平成 26 年 3 月 31 日)

属性	会社等の名称	住所	資本金 (千円)	事業の内容	議決権等の 所有(被所有) 割合	関連当事者との 関係	取引の 内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
親会社	日本碍子(株)	名古屋市 瑞穂区	69,849,166	がいし等電力 関連機器、産 業用セラミッ クス製品、特殊 金属製品の製 造販売及びプ ラントエンジ ニアリング事業	(被所有) 直接 40.7%	同社製品の 購入及び当 社製品の販 売、資金の貸 付	資金の 貸付	3,114,703	短期貸付金	2,749,766
							利息の 受取	14,339	流動資産 (その他)	1,041

(注) 当社は、日本碍子(株)が導入しているCMS(キャッシュ・マネジメント・システム)に参画しております。

資金の貸付についてはCMSに係るものであり、市場金利を勘案して利率を合理的に決定しており、担保は受入れておりません。

(4)親会社との取引等を行う際における少数株主の保護の方策の履行状況

親会社である日本碍子株式会社とは、技術供与に関する対価の支払いを除き重要な営業上の取引は行っておりません。なお、技術供与の対価については同社との契約書で取り決めておりますが、契約書の締結においては当社の取締役会においてその内容が一般に公正妥当であることを確認の上、承認しております。

また、当社グループは日本碍子株式会社の運営するキャッシュ・マネジメント・システムに参画し、余剰資金及び不足資金について金銭の貸借取引を行っております。その際の利率については市場水準を勘案して合理的に決定しております。

以 上